

北麓 アート ファイル 2010

H O K U R O K U A R T F I L E 2 0 1 0

11.13 [土] ▶ 12.23 [木]

file 1 本間正英

file 2 櫻井孝美

file 3 前田康成

file 4 百鬼丸

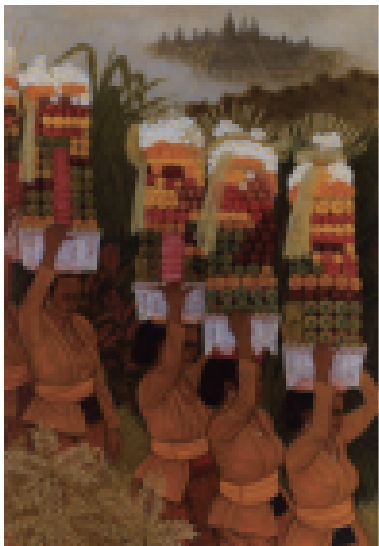


河口湖美術館
KAWAGUCHIKO MUSEUM OF ART



語り合いの時

紙本彩色 1993 第78回院展



ガボガンを運ぶ

紙本彩色 1985 第70回院展

file 1 本間正英

1931年 新潟県出身

1956年 東京芸術大学日本画科卒業

1957年 同専攻科修了

1982年 日本美術院特待推挙

前田青邨、平山郁夫に師事

現在日本美術院特待 日本美術家連盟会員

誠実に生きて働く普通の人々の生活や心情を表現したいと、私は絵の主題にしています。

生まれ育った新潟や佐渡は農家や漁師の方が身近にいて、その方達の純粋さや遅しさに触れ、敬愛し、働く姿を描いてきました

三十年前、訪れたバリ島は農耕、信仰、芸術が一体となった神々のすむ不思議な世界でした。人間も豚も鶏も自然を構成する同じ要素のようで、澄んだ瞳の子供と、微笑む人々には時間もゆったり流れていました。

バリの人々の生活の支えはヒンズー教にあります。供物を載せて歩く華やかな祭りやガムラン音楽に象徴されるダンスやワヤンなどの芸能と緻密な絵画、彫刻、染色、織物など、伝えられた道具を大切に使いながら、すべて高度で美しく、夢幻的な雰囲気さえ感じました。本当の豊かさとは何か、人間の在り方や生き方を考えさせられました。それから幾度も訪れ、目にするバリの人々の日常生活の一端を描いてみました。

富士河口湖町に二十年来移り住み、勝山の水彩画を描く仲間たちと写生に出かけたりして、絵を描く楽しみを共有しています。

file 2 櫻井孝美

1944 埼玉県出身

1963 埼玉県立不動岡高等学校卒業

1967 独立展に出品

1968 日本大学芸術学部美術学科卒業 富士吉田市にアトリエをかまえる

1976 土日会結成に参加。以後毎年出品

1978 自由美術展で佳作賞受賞

1983 山梨芸術祭賞受賞

1984 山梨県新人選抜展で山梨県立美術館賞受賞

1985 東京セントラル美術館油絵大賞展で大賞受賞

IBM 絵画イラストコンクール展でグランプリ受賞

1986 現代美術の祭典（埼玉県立近代美術館）で準大賞受賞

1987 第22回昭和会で昭和会賞受賞

1988 第31回安井賞受賞 富士吉田市文化功労賞受賞 野口賞受賞

1990 両洋の眼（'91'92'95'96'06-'09）

1991 現代日本絵画展出品（北京、東京）

1994 21世紀の旗手 日本の絵画1994展出品

1996 個展（池袋西武アートフォーラム）

1997 「櫻井孝美自選展」（山中湖高村美術館）

1999 櫻井孝美展（日本橋三越）

2000 『SAKURA』展（パリ MB ギャラリー シャモニー市美術館）

2002 日本・中国現代美術展（ニューヨークアジア美術館）
安井賞40年の軌跡展

2004 「歌会始御題によせて」展（式年遷宮記念神宮美術館）（'06）

2008 日中国際交流芸術展（北京故宫博物館太廟大殿）

2009 21世紀・絵画・手の仕事展（丸の内幸地下ギャラリー）

2010 上海世界博覧会中・日・韓美術作品交流展覧会（上海美術館）

現在 日本大学芸術学部美術学科講師 土日会代表

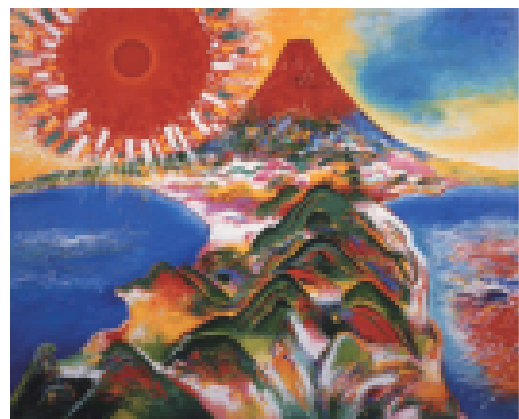
「赤光」

夏目漱石の『草枕』の冒頭に「…生きにくい世の中だと悟ったとき詩が生まれ画ができる…」とあります。

私は、逆境にあっても「生きるという希望」が漱石のいう詩であり画であると解釈しています。

私の住む富士吉田では新月の闇の中でも聳え立つ富士山を臨むことができますが、その気高さを映し出すのは日月の光です。光は希望です。私が描く富士山は光を描くことだと思っています。

私の絵を見て「ゼロとは無限大だと気付いた」、「もう一度生きたい」、「考えが死から生に変わった」と言ってくれた人たちがいました。見出したこの希望の詩から、私は描き続ける力を頂いています。



天地無上 キャンバスに油彩 2001



竜の涙 紙に鉛筆 2001



心 墨・パステル・水彩 2010

file 3 前田康成

- 1950 山梨県富士吉田市出身
 - 1969 虫プロダクション入社
 - 1978 郷里山梨に拠点を移す テレビアニメ番組「まんが日本昔ばなし」(愛企画)の演出・作画にたずさわり、16年間で90作品をてがける
 - 1985 「まんが日本昔ばなし」10周年記念劇場長編アニメーション「ごんぎつね」の制作で監督を務める
 - 1991 学研・大阪映画「白い馬(馬頭琴)」監督
 - 1992 畳460 畳の河童絵「河童ちゃん」を地元の中学生と共に制作
 - 2002 東映教育「世界一美しい ぼくの村」「ぼくの村にサーカスがきた」監督
 - 2003 虫プロ「トキ 縄文・弥生・奈良・江戸時代」演出・作画
 - 2004 東映教育「ひびけ和だいこ」監督 グループタック「山伏と狐」と「片羽千里」演出・作画
 - 2006 富士河口湖町いやしの里・大型紙しばい「ふう爺さん」制作
 - 2009 個展「今の昔展」山梨県立美術館ギャラリー A
 - 2009 昇仙峡影絵の森美術館「前田康成の世界」展(～2010)
 - 2010 高鍋町美術館特別展「東ちづる・前田康成 二人展」
- <http://www16.ocn.ne.jp/~kousei/>

鉛筆馬鹿物語

今から30年前、私は東京から山梨に戻り、家でアニメの仕事をしていました。アニメって何？まだ、そんな時代でした。当時、私は近所で鉛筆を買い、手に数本の鉛筆を持って歩いていると後ろから数人の小学生達がやってきて「えんぴつパーカ、えんぴつパーカ」とはやしたて楽しそうに私の後からついてくるのです。いま思うと、のんきでのどかな時代でした。その頃は、もう「まんが日本昔ばなし」を描きはじめていました。当時の小学生は大人になり私はというと相変わらずの鉛筆馬鹿なのであります。



- 1951 山梨県富士吉田市に生まれる
- 1969 山梨県立吉田高等学校卒業
- 1973 東洋大学工学部建築学科卒業
- 1977 いくつかの職業を経たのち切り絵を始める
- 1980 雑誌「旅」(JTB)でプロデビュー
- 1980年代
 - ・文春文庫、早乙女貢著「おけい」で書籍カバー画を担当
 - 現在約700冊の単行本・雑誌・文庫本等のカバー・表紙画を担当
 - ・サンデー毎日の表紙を1年間担当
 - ・1987 市川猿之助カレンダー(富士ゼロックス)制作
 - ・第一回国際アニメーションフェスティバル(広島)で手塚治虫作品「村正」のキャラクターデザインを担当
 - ・1988年度新聞広告優秀賞受賞

- 1990年代
 - ・朝日新聞夕刊連載 白石一朗著「異人館」挿し絵担当
 - ・雑誌「旅」(JTB)で「フランス紀行」「青森・十二湖紀行」「宇治紀行」「松代紀行」で切り絵・文章を担当
 - ・宇治市役所ロビー陶壁画(3m×9m)制作
 - ・NHK総合 シリーズ挑戦・「百鬼丸」出演、スポット番組「大樹の詩」5編の切り絵制作
 - ・週刊新潮連載 安部龍太郎著「日本史・血の年表」佐江衆一著「クイーンズ海流」挿し絵担当
 - ・挿絵画家グループ「草鞋之会」結成(原田維夫・蓬田やすひろ・西のぼる・百鬼丸)
 - ・1997 第6回日本文芸クラブ大賞美術部門受賞

- 2000年代
 - ・2001 週刊文春小説挿し絵連載 宮部みゆき著「ゼツペン」挿し絵連載
 - ・2002 毎日新聞朝刊小説挿し絵連載 北方謙三著「黒龍の枢」挿し絵連載
 - ・富士吉田市立病院ロビー 陶壁画(3m×7m)制作
 - ・山梨県立吉田高等学校陶壁画(1.8m×6m)制作
 - ・2006「吉田の火祭りポスター」富士吉田市役所にて公開制作
 - ・2007「風林火山博」公式イラストレーターに就任
 - ・2007「吉田の火祭りポスター」富士吉田市役所にて公開制作
 - ・2007 挿絵画家グループ「草鞋之会」展(銀座伊東屋)出品
 - ・2008 個展(銀座伊東屋)
 - ・2008 富士吉田市火祭りポスター制作
 - ・2010 切り絵・モダニズムの世界展(山梨・富士川切り絵の森美術館)出品

ホームページ <http://www.hyakkimaru.com/>

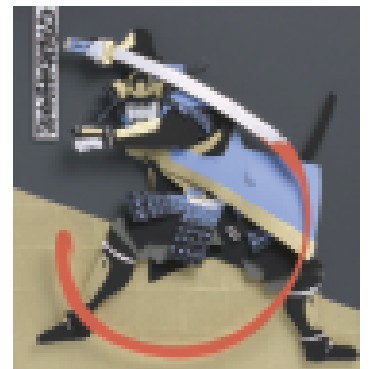


つわもの達

file 4 百鬼丸



シリーズ『おいらんちゃま(お豊)』



武田二十四将 真田幸隆

企画展として「北麓アートファイル」を立ち上げました。対象としては富士山北麓地域に関わりのあるアーティスト。タイトルに示すとおり、アートをファイリングする活動です。北麓を拠点に現在進行形で制作している人、夢を追いつづけて生を終えられ先人となられた方、今も遠くで故郷を想いながら戦っているあの人この人...、それらひとつひとつを文字通り綴り重ねてゆきます。

町立の美術館でやるのですから富士河口湖町アートファイルと考えるのが自然なのでしょうけれどしかし作家人口、というよりもそもそもの絶対人口から考えれば早晩ネタがつかせてしまうのではという心配があります。ならば永続きできるようにはじめからエリアを広めに構えて、どこからどこまでというはっきりした境界を限定しなそうな、まあ、場合場合で好きなように解釈できそうなやわらかい「北麓」という言葉をあえて採択しました。周知のように山梨県はいくつかの地域に区分けして考えられていてその中のひとつに私たちの生活域を示す「郡内」という枠組みがありますが、この呼称は中世から使われている行政用語で制度的な意味合いを感じるけれど、これがはたしてこんにちの文化圏を示す括りとしてふさわしいだろうか？という疑問をめぐいきれません。ことばづらとしても「郡内アートファイル」「富士五湖アートファイル」だと濁音がかいてはアクッぱい印象がする。頭に富士をつけて「富士北麓アートファイル」でもいいような気もしますが長くていづらい。「山梨県東部富士五湖アートファイル」ではちょっとねえ、天気予報じゃないのですから....。 Hokuroku Art File なら三拍子がリズムカルで気持ちがいいし唇のすべりもスムーズだと思いました。一般的に山のふもとのことを岳麓といい、山の北側のことを北麓という言い方で表現します。富士山周辺でこの北麓という言葉がいつごろから使われだしたのか誰がいい始めたのか実はまだ調べきれていません。江戸時代にはそういう言い方はなくて早くても近代になってからのことでしょう。どなたか詳しくご存じの方はご教示いただければ幸甚です。ちなみにですが静岡県の富士市やその周辺あたりには富士山の南側を意味する言葉で「岳南（がくなん）」という表現があってそれを名称に採り入れている企業や団体も

あるそうで、尋ねてみると製紙産業の勃興とともに使われるようになった言い方らしいのだけれどあらためて考えてみると由来や根拠がどうもよくわからない、と話に聞きます。

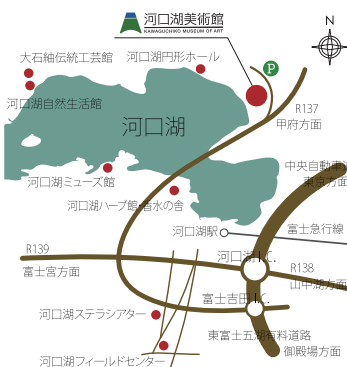
閑話休題。今回は4人の作家に出品をお願いしてFileNo.1から4とさせていただきます。日本画家で院展の本間正英さん、安井賞作家の櫻井孝美さん、まんが日本昔ばなしの前田康成さん、切り絵の百鬼丸さんです。一方的な呼びかけにもかかわらずいづれも快く聞き入れてくださいました、厚くお礼申し上げます。

北麓アートファイルは、No.5以降をいつどのように実施するかまだ考え中です。また今後、年次開催とか隔年開催のように周期性をもたせるかどうか未定です。低予算での実施を余儀なくされていますので、日頃から準備をしておいて、出来るときはしたくなったときにするという選択肢もあります。ぼちぼちと静かにではあっても永く続けてゆきたいと考えています。

北麓 アート ファイル 2010

HOKUROKU ART FILE 2010

- 主催＝河口湖美術館
- 休館日は火曜日 11/23(祝)は火曜日ですが開館します
- 開館時間＝11月は9:30－17:00(入館は16:30まで)
★12月は9:30－16:30(入館は16:00まで)
- 入館料＝一般・大学生500(450) 高校生・中学生300(270)



- ◆ 富士急行線河口湖駅から路線バス《甲府駅行》《大石ブチベンション村行》「河口湖美術館前」下車徒歩約7分
 - ◆ 河口湖周遊レトロバス「河口湖美術館」下車すぐ ◆ 中央自動車道河口湖 I.C.から約10分 ① 無料駐車場(普通車50台 大型バス6台)
- 401-0304 山梨県南都留郡富士河口湖町河口3170 tel 0555-73-2829 fax 0555-76-7879 <http://www.fujisan.ne.jp/kgmuse/>

同時開催

所蔵品展

富士山の絵画・版画・写真